

・シュリンクバック対策実施のお願い (ポリエチレン系シース高圧ケーブル)

▶ 概 要

- エコケーブルのシースもシュリンクバックする事をご存知でしたか？
- 事故防止の為シュリンクバック対策をしましょう！

▶ 対象製品

- 対象電圧：3300V(3kV)／6600V(6kV)

■ 対象製品例

ポリエチレンシースケーブル：CE(T)

耐燃性ポリエチレンシースケーブル：EM-CE(T)/F，NH-CE(T)

耐火ケーブル：EM-FP(T)(NH)

▶ シュリンクバック現象

■ 布設後のケーブルシースが徐々に収縮する現象

使用環境や負荷状況によっては、接続部の防食テープが引っ張られ、中の銅テープが見える状態になる場合があります、更にシュリンクバックが進むと銅テープが破断し、地絡事故が発生する可能性が高くなります。

テープがずれて
この部分がくび
れている



テープがずれて
銅テープが見え
ている

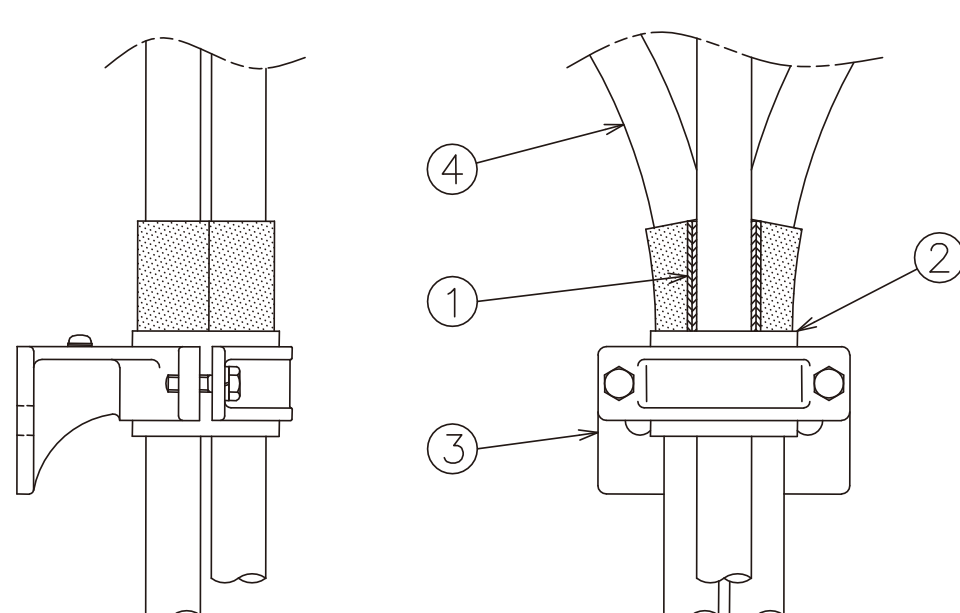
▶ シュリンクバック対策例

- 端末部及び接続部において、シースが収縮することがありますので、対策を施してください。端末部や直線接続部から1m以内での対策実施を推奨します。

【シースずれ止め用熱収縮チューブによる対策例（端末部）】

【スプリング式アルミクリートによる対策例（端末部、直線接続部共通適用可）】

シースずれ止め用熱収縮チューブ
トリプレックス形ケーブル用



① 熱収縮チューブ（内面接着剥付き） ② ゴムスペーサー ③ ブラケット ④ ケーブルシース

